

邑南町地域新エネルギービジョン

「概要版」

環境にやさしいエネルギーを活かすまち

onan town

平成20年2月

島根県邑南町

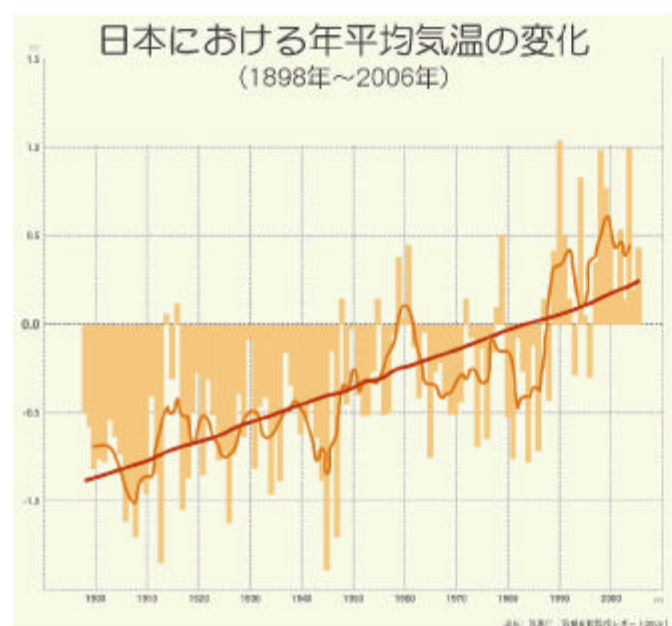


私たちが住んでいる地球は、どうなっているの？

● 地球温暖化問題を知っていますか

「地球温暖化問題」は、石油や石炭などの化石燃料を燃焼させることで、二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に発生し、宇宙に放出される熱が大気中に閉じ込められ、地球の温度が上昇することです。

地球の温度が上昇することで、海面の上昇による陸地の水没や、感染症の蔓延といった様々な事態を引き起こす可能性が指摘されており、大きな問題となっています。



▼地球温暖化のメカニズム



温室効果ガスが増えすぎると宇宙へ放射される熱が減り、地表の温度がどんどん上昇します。

地球温暖化により懸念される影響

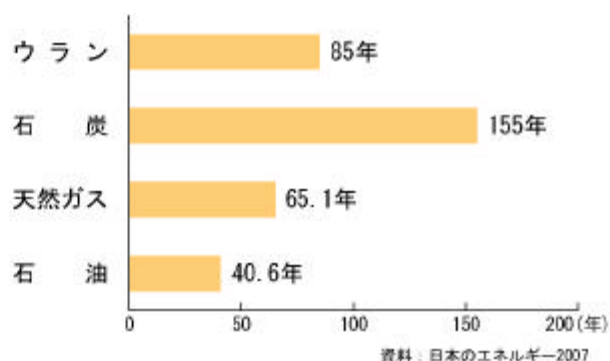
海面水位上昇による土地の喪失
砂漠化の進行
生態系への悪影響
豪雨や干ばつ等、異常気象の増加
マラリア等の熱帯性の感染症発生数の増加 等



● エネルギーに可採年数があるの？

世界のエネルギー供給可能量(可採年数)は、現在のまま使い続けると、遠くない将来に枯渇する懸念があります。石油、石炭などの化石燃料は有限の資源ですが、特に石油についてはおよそ40年と見込まれています。

▼エネルギー資源の可採年数



私たちの地球で起こっている「地球温暖化」「エネルギー問題」の解決へ向けて、
「新エネルギー」が重要な役割を果たします。

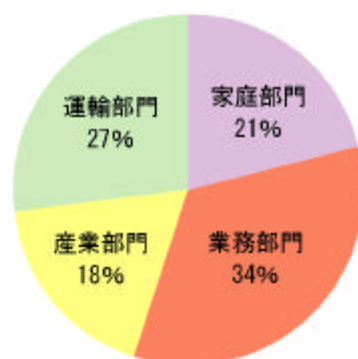
私たちのまちでも多くのエネルギーが消費され、それに伴いCO₂が排出されています

● エネルギー消費量

私たちの生活や産業は多くのエネルギーを消費することで成り立っています。2006年度における本町全体でのエネルギー消費量を原油に換算すると、35,587kLになります。

町全体の消費量を部門別で見ると、業務部門の占める割合が最も多く、全体の34%を占め、次いで運輸部門の27%、家庭部門の21%、産業部門の18%となっています。

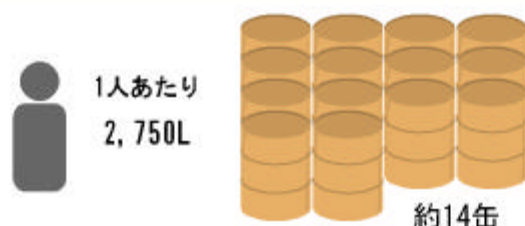
▼部門別構成比



エネルギー消費量を町民一人あたりでみると

町全体で年間に消費するエネルギー消費量(原油換算)を町民一人あたりでみると、ドラム缶13.7缶(1缶200L)になります。また、家庭部門の消費量について、町民一人あたりでみると、2.9缶になります。

町全体のエネルギー消費量をみると



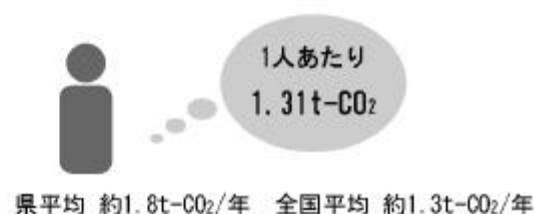
家庭部門のエネルギー消費量をみると



● 二酸化炭素の排出量

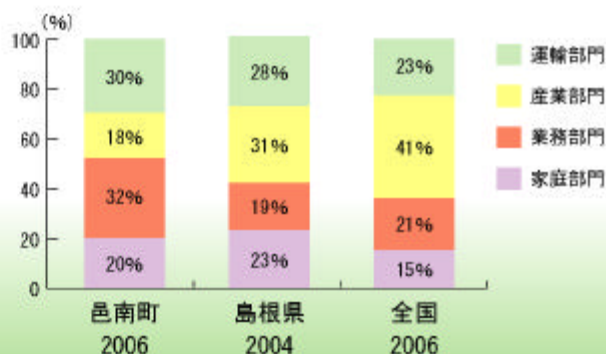
家庭から排出されるCO₂量を町民一人当たりでみると、1.31t-CO₂となります。県平均の排出量と比較すると本町の一人当たりの値が約0.49t-CO₂少なくなっています。

▼家庭から排出されるCO₂量



全国や島根県の割合と比較すると、業務部門や運輸部門が高く、産業部門が低くなっています。

▼部門別二酸化炭素排出量構成比



新エネルギーって何？

新エネルギーは、自然エネルギーや今までに使わずに捨てていたエネルギーを有効に利用することで、地球温暖化や化石燃料の枯渇に対応する地球にやさしいエネルギーです。

● 主な新エネルギー

太陽光発電

太陽の「光エネルギー」を直接「電気エネルギー」に変換する発電方式です。



出典：（財）新エネルギー財団

太陽熱利用

家の屋根などに設置した太陽熱温水器で温水を作り、お風呂や給湯に使います。



出典：（財）新エネルギー財団

風力発電

「風の力」で風車をまわし、その回転運動を発電機に伝えて「電気」を起こします



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター

木質バイオマス

植物などの生物体（バイオマス）は有機物で構成されるため、燃料として利用できます。

これら木材などの燃料を使って電気や熱をつくれます。



BDF（バイオディーゼル燃料）

家庭などから出る天ぷら油などの廃食油を利用して、ディーゼル自動車用の燃料（BDF）をつくることができます。



廃食油回収BOX（庄原バイオマスフォーラム）

クリーンエネルギー自動車

電気で走る電気自動車、ガソリンエンジンと電気モーターを組み合わせるハイブリッド自動車、炭素や有害物質の少ない燃料を使う天然ガス自動車やメタノール自動車があります。



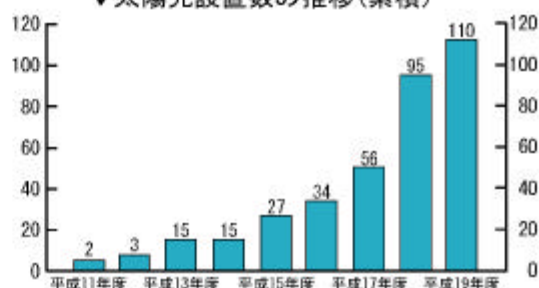
ハイブリッド自動車（資料：環境省）

私たちの身近で使われている新エネルギー

町内事例①：太陽光発電

太陽光発電の設置数は、平成19年までの実績で110台となっており、世帯数4,636世帯(H17国勢調査)で見ると、普及率は2.4%になります。

▼太陽光設置数の推移(累積)



町内事例②：太陽熱利用

三笠記念病院、サンホームみずほ、健康センター元気館では、大規模な太陽熱集熱システムが導入され、給湯・暖房に利用されています。

家庭における太陽熱利用は、既に太陽熱温水器として広く普及しており、本町においても約25%の世帯で利用されています。(町民アンケート)

▼太陽熱利用(健康センター元気館)



町内事例③：木質バイオマスエネルギー

木質バイオマスエネルギーでは、薪ボイラーの導入が特徴的です。平成14年に初めて町内へ導入され、平成18年までに17台となっています。

内訳は、家庭用12台、事業用3台、農業用2台です。農業用では、菌床しいたけの加温用として、利用されています。

▼農業での利用



▼家庭での利用



新エネルギーについて、アンケートを実施しました

新エネルギーに対する町民の意識

アンケートの概要

調査対象：町内居住の住民
配布・回収：郵送
配布数：1,156
回収：508 (43.9%)

●新エネルギーの認知

風力発電や太陽光発電、太陽熱利用は、8割以上の方が認知しています。その中で、太陽熱温水器は25%の家庭で導入されています。

●利用したい新エネルギー機器

利用したい新エネルギー機器として、太陽光発電、太陽熱温水器、クリーンエネルギー自動車、木質燃料ストーブが多くなっています。

地域新エネルギービジョンを策定しました！

「自然と共生する環境にやさしい町」の実現を目指し、新エネルギーの導入計画となる“邑南町地域新エネルギービジョン”を策定しました。

基本方針

①エネルギーの“地産地消”の推進

豊富に存在する自然エネルギーの利用を進めるとともに、生活や産業活動の場から排出されるエネルギーの回収を進め、町内の活動に必要なエネルギーをできるかぎり自給するエネルギーの“地産地消”のまちの実現を目指します。

②新エネルギーの導入と産業振興の両立

木質バイオマスエネルギーの導入促進を通じ、林業や製材業の活性化を支援し、さらに、観光や農業などの既存産業の活性化に資する新エネルギーの導入方策を検討し、新エネルギーの導入を通じた産業振興を実現します。

③町民参加による新エネルギーの導入

町民参加のもと、官民一体となって新エネルギーの導入を進め、町民自らの手でつくる環境にやさしいまちの実現を目指します。

④環境のまちづくりの推進

新エネルギーを活用した環境シンボルの創出、町民や子どもたちに対する環境学習、情報提供を進めることで環境意識の高揚を図り、新エネルギーの利用や環境保全活動を促進します。

将来像

町内に豊富に存在する自然の恵みを新エネルギーとして、効果的に生活や産業の場に取り入れることで、住民や来訪者が豊かな自然の恵みやそれらとともに成り立っている地域の魅力を感じることができるまちを目指し、本ビジョンの将来像を以下のように設定します。

～環境にやさしいエネルギーを活かすまち～

施策体系

基本方針に基づき、5つの重点プロジェクトを設定しました。これらの取組みを推進し、ビジョンの将来像の実現を図ります。

～環境にやさしいエネルギーを活かすまち～

エネルギーの
地産地消の推進

①太陽エネルギー導入プロジェクト

②木質バイオマスエネルギー導入プロジェクト

③廃食油利活用プロジェクト

新エネルギーの導入
と産業振興の両立

町民参加による
新エネルギーの導入

④クリーンエネルギー自動車導入プロジェクト

⑤環境とエネルギーに関する学習・啓発プロジェクト

環境のまちづくり
の推進

● 重点的に取り組む施策

太陽エネルギー導入プロジェクト ※太陽光発電、太陽熱利用

●家庭への普及促進

- ・導入効果のPR
- ・町広報紙等を利用した情報提供

●公共施設への導入促進

- ・公共施設への機器の導入
- ・町の環境に取り組む姿勢をPR



資料：（財）新エネルギー財団

木質バイオマスエネルギー導入プロジェクト ※チップボイラー、ペレットストーブ、薪ボイラーなど

●公共施設への導入促進

- ・公共施設等への導入検討

●家庭への普及促進

- ・導入効果のPR



廃食油利活用プロジェクト ※BDF：バイオ・ディーゼル・フューエル=使い終えた天ぷら油などの廃食油からつくった軽油代替燃料

●廃食油収集システムの構築

- ・住民が参加した廃食油収集システムの検討

●公用車等へのBDFの利用

- ・BDFを公用車等へ利用し、運行を通じて、取組みをPR



資料：バイオマスフォーラム庄原

④クリーンエネルギー自動車導入プロジェクト ※ハイブリッド自動車、天然ガス自動車やメタノール自動車・電気自動車など

●公用車等への先行的導入

- ・買換え時に、購入の検討

●自家用車への普及拡大



資料：（財）新エネルギー財団

⑤環境とエネルギーに関する学習・啓発プロジェクト ※環境学習、普及啓発

●情報提供の推進

- ・広報紙等による町民への情報提供

●小中学校での環境学習の推進

- ・子どもたちに対する環境学習の機会提供

●環境ブースのイベント等への出展

- ・イベント等への環境ブース出展による普及活動

「環境の日」ひろしま大会



資料：広島県

ビジョンの推進に向けて

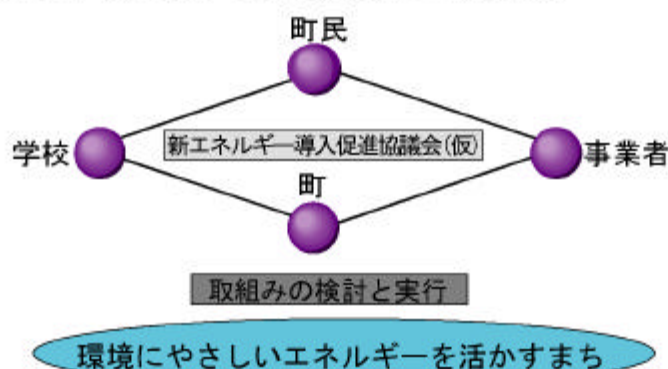
環境にやさしいエネルギーを活かし、美しい自然を次世代へ引き継ぐため、私たちができることをしましょう。

本ビジョンを実現するためには、町民・事業者・町が協力して導入実施計画を策定し、それぞれの役割分担を明確にして、各重点プロジェクトを推進していく必要があります。

また、長期的視点に立って、町の将来を担う子どもたちの参加を促していく必要があります。

推進体制

本ビジョンにおいては、ビジョン策定過程で組織した行政内検討組織をビジョン推進組織とし、策定委員会とのネットワークを基軸として、町民・学校・事業者・町からなる推進体制を構築します。ビジョン推進における各構成員の役割に基づいて、ビジョンの確実な実行につなげます。



各主体の役割

町の役割

- ・ビジョンの進行管理
- ・公共施設等へ率先した新エネルギーの導入
- ・町民、事業者との連携調整
- ・普及啓発、情報提供

町民への期待

- ・家庭への新エネルギー導入
- ・新エネルギーの活用、環境活動への参加
- ・環境学習への参加

学校への期待

- ・環境学習プログラムの立案、実施
- ・学校への新エネルギー導入
- ・プロジェクトへの子どもたちの参加推進

事業者への期待

- ・環境管理等に関するノウハウの普及推進
- ・新エネルギー普及活動への積極的参画
- ・環境ブースの町内イベント等への出展
- ・供給体制（木質バイオマス、BDF）への協力



発行年月：平成20年2月

発行：邑南町役場定住企画課

TEL：(0855)95-1117 FAX：(0855)95-0223

郵便番号696-0192 島根県邑智郡邑南町矢上6000

本調査は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の平成19年度「地域新エネルギー・省エネルギービジョン策定等事業」の補助金により実施しました。